

子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第26号 (令和5年10月10日)

運動会⑧

協力・笑顔・最後まで

全力で駆け抜ける!

PART. 3

今回は文字が多いですが、担任の先生やおうちの方と一緒に読んでくださいね。



児童朝会(10/10)での話 運動会を終えて

9月30日の運動会、とても良い運動会でした。運動会に来られていた方々と今年の運動会について話しました。どの方も「子どもたちが生き生きしているなあ」「成長の跡が見られた」などのとても嬉しい感想を言われました。(みなさんや先生たちがほめられると嬉しいですね)

学校だよりに載せるために、いろいろな先生がとった写真を見ると、確かにみなさんの表情が生き生きとしていたり、笑顔だったり、一所懸命だったりというものばかりでした。

さて、運動会の閉会式でみなさんをお願いを1つしました。それは「この運動会でがんばったこと、学んだこと、友だちのよかったところ等をしっかりと振り返って、これからの生活に生かそう」ということでした。

「みなさんがどんな振り返りをしたかなあ？」とみなさんが書いた【運動会がんばりカード】を読むと、「おどりをがんばった」「走るのをがんばった」「綱引きをがんばった」などの【競技でのがんばり】を書いている人や「自分の中では一番がんばった」「協力できた」などの【前の自分と比べたり、周りを意識したりするがんばり】、「係の仕事をがんばった」「早く集まることをがんばった」などの【賞状やトロフィーが出ないことのがんばり】を書いている人もいました。それぞれの人が自分なりのがんばりを書いていて、嬉しかったです。

またこれからの生活に生かすこととしては「時間を守る」「てきぱき行動する」「全力でやることを増やす」「周りをしっかり見る」など、どの人も自分のやろうとすることが書いてありました。

学校行事のあとにはよく《非日常を日常に》と言っています。どういうことかということ、練習を含めて運動会という【いつもの生活にはない時間】に学んだことをこれからの生活【いつもの生活】に生かしていくことです。これが運動会や学習発表会などの学校行事をする大きな意味です。ぜひ、【自分が決めたこれからやろうとすること】を行いましょ。

祭のあとが大切!

《非日常を日常に》は昔からよく子どもたちに話していました。裏面には、私が学級担任だった頃書いた学級だよりの一部を載せます。これは今から13年前(平成22年)、中学2年生(2A)34名の担任だった時のものです。今のところ私が学級担任をした最後の年であり、この年の合唱コンクールが終わったあとの学級だよりです。

この学校では、9月にある体育会(運動会)と11月にある合唱コンクールを合わせて【学校祭】と呼んでいました。体育会のあとも学年やクラスの子どもたちに話しましたが、いよいよ合唱コンクールが終わった=学校祭が終わった時に【祭のあとが大切!】と話しました。

祭のあとが大切！

教室の後ろに掲示してある『班ポスター』は、合唱コンクール前に君達が作ったものです。『最優秀賞をとるぞ〜』などの意気込みが表れていて、良い『班ポスター』に仕上がっていますね。

11月13日（土）、合唱コンクールが終わり、君達が帰ったあとで、『祭』に続けて『のあとが大切』を付け加えました。

君達には常々、『最優秀賞をとるという1つの目標に向かってがんばることは大切です。それと同時に、いやそれ以上に、合唱という手段を使って、自分の精一杯が出せたという充実感をもつことやクラスの人達と繋がり、周りとの協力できる姿勢を身に付けることが大切です。』と話してきました。だからこそこれからが大切です。

君達は、この合唱コンクールを実行委員さんたちを中心に『自分達でおこなう』ことができました。一人一人、大いに誇ってよいと思います。

また学年通信11月号No. 4に『自分を高めようと思えば、まず学級を高めましょう。』と書きました。自分ができることを精一杯することや周りやクラスのために協力することでもっともっとクラスは良くなります。その結果、自分も高めることができると思います。したがって、これからの目標は『2Aをもっと良いクラスにする』ことです。

授業態度、清掃・給食などの当番活動、友人関係などについてももう一度、自分を振り返り、さらにできるようにしていきましょう。そして3月、2Aが解散する時に『2A、良かったなあ。』と自信をもって言えるようにしましょう。先生もそのためにしっかりと頑張ります。



平成22年度2A学級通信『上昇気流』第39号裏面一部抜粋(平成22年11月17日発行)



10月10日の児童朝会でみなさんに話したことと昔、担任をしたクラスで話したことは一緒だと思いませんか？それはこれが運動会や学習発表会などの学校行事をする大きな意味だと思っているからです。

ちなみに上にも書きましたが、平成22年度合唱コンクールの日に「のあとが大切」を教室の後ろの壁にくっつけて、黒板にメッセージを書いて、翌日（日曜日）に富山県へ行きました。なぜ行ったかという、当時、岡山県が進めていた事業で、岡山県の子どもたちの学力向上のために先生たちが県外の進んでいる学校で勉強して、その結果を報告することになっていたからです。

この事業では、岡山県内の小・中学校の20名ほどの先生が受け入れてくれる県（覚えているのは広島県・香川県・静岡県など10県ほどあったと思います）にそれぞれ行くことになっていました。私は富山県でした。

私は、合唱コンクールの翌々日の月曜日から金曜日までの5日間、富山市内中心部にある全校生徒700人ほどの中学校で勉強しました。授業を見て感じたことなどや学力向上について先生方と話をしたり、道徳（当時）の授業の研究部会に参加したり、富山県の教育について教えてもらったり、部活動の見学をしたりしました。夜はホテルで、学校に電話し、2Aや2年生の様子をきいたり、上に載せた学級だより第39号（合唱コンクール総括2）とその前の第38号（合唱コンクール総括1）を書き、メールで学校に送り、印刷・配付してもらったりしました。

先日、この2Aの生徒だった子ども（子どもといっても27才）に私の家の近所にあるコンビニエンスストアで偶然、会いました。1時間ほど立ち話をしましたが、その中で合唱コンクールのことが話題となり、「先生、あの時言ったこと覚える？」と聞かれ「傷つけることを言ったかなあ」とドキッとしましたが、前向きな言葉だったのでほっと一安心。**みなさんも友だちにかける言葉には十分注意してくださいね。**

この2Aの合唱コンクールの結果は最優秀賞ではなく優秀賞でした。最優秀賞には届きませんでした。ステージから降りてきた時のやりきった表情や終わって教室で撮った写真の清々しい表情は一所懸命やった人だけがもてる充実感のあるものでした。

玉小の先生たちが撮ったみなさんの写真を見ると、どれもとっても良い表情でした。1つ大きな行事をやり遂げたみなさん一人一人やクラスの成長がもっと楽しみになっています。